

「看到」, 「见到」の使い分け

The Difference in Usage Between “看到” and “见到”

成 戸 浩 嗣

概要

中国語の視覚動詞「看」, 「见」は, いずれも結果補語「-到」をともなって「看到」, 「见到」のカタチで用いられることがある。一般に, 「看」は客体に対して「見よう」と働きかける動作の過程を表わすのに対し, 「见」は「見えた」という結果をも含意するとされる。動詞自身にこのような意味上の相違が存在する一方で, 「V+結果補語」の形式をとる「看到」, 「见到」が並存しているということは, 両者の間に何らかの区別があり, 相互に異なるコトガラやニュアンスを表わす働きをしていると考えるのが妥当である。そして, それらの相違を明らかにすることは, 「看」, 「见」の相違, さらに結果補語「-到」の働きについての従来の見解をもさらに深めることとなる。「见到」, 「见」間の相違については成戸 2004 aにおいて, 「看到」, 「见」間の相違については成戸 2004 bにおいて考察を行ない, 一定の結論を得た¹⁾。本稿は, 具象物を表わすモノ名詞を客体とする表現例を中心に, 「看到」, 「见到」という二つの形式を直接に比較し, それぞれの特徴を明らかにすることを目的とする。

キーワード

- (1)話し言葉的・書き言葉的 (spoken, written)
- (2)意志性 (volition)
- (3)距離・視野 (distance, view)
- (4)動作の方向性 (attitudes to 'seeing')
- (5)他動性 (transitivity)

目次

- 1 「看到」, 「见到」の基本的な相違
 - 1.1 話し言葉的な「看到」, 書き言葉的な「见到」
 - 1.2 意志性の強弱について

2 距離・視野と方向性

2.1 主体・客体間の距離, 視野の広さ

2.2 動作の方向性

3 主体の必須度と他動性

3.1 主体の必須度

3.2 表現の他動性

1 「看到」, 「见到」の基本的な相違

本章においては, 「見る」動作を表わす場合に見られる「看到」, 「见到」の基本的な相違について考察をすすめる。

1.1 話し言葉的な「看到」, 書き言葉的な「见到」

現代中国語の話し言葉において「见」は通常「会う」ことを表わし, 「見る」ことを表わす場合には書き言葉的であるとされる。成戸 2004b p.71 においては, 「見る」動作を表わす場合における「看到」, 「见」間の相違について,

①「看到」～目にした事実と, その事実に対する肯定的価値判断を述べる話し言葉的な表現形式

②「见」～目にした事実を客観的に述べる書き言葉的な表現形式

との結論を得た。「见」の有する書き言葉的な成分としての性格は, 「-到」をともなった場合にも失われることはなく, 「见到」は「看到」に比べると書き言葉的な表現であるとされる。例えば

(1) 小王, 你看到我的字典了吗?

(2) 果然, 接着让瞿海良写第二份材料: “你看到过什么, 听到过什么, 想些什么?”

(報告 p.533)

のような純然たる話し言葉的な表現には, 「看到」を用いるのがふさわしい。上記の表現例における「看到」を「见到」に置き換えると,

* ? (1) 小王, 你见到我的字典了吗?

のように非文もしくは不自然とされるか,

(2) 果然, 接着让瞿海良写第二份材料: “你见到过什么, 听到过什么, 想些什么?”

のように自然な表現として成立はするものの, 「看到」を用いた(2)の方が better とされる。(2)の場合, 「見る, 聞く, 思う(考える)」を表わす中国語の動詞として, 話し言葉であれば「看, 听, 想」が, 書き言葉であれば「见, 闻, 思」が用いられるという通常の用法から外れている。また,

(3) 回到彭家围子, 彭老总在向乡亲们告别前, 对大家说: “我就要走了。根据我在其他地

方和在家乡看到听到的情况,我觉得,大跃进、人民公社是要搞。但要定个章法,立个规矩,不能瞎搞一气。”(报告 p.596-597)

の場合には,「看到听到的情况」の部分を「见到听到的情况」とすると表現の整合性が劣るとされるか,インフォーマントによっては非文とされる。これは,「看到听到的情况」のカタチで「見聞きしたこと」という一つのまとまった概念を表わしており,(2)の場合よりも話し言葉としての一貫性が強く求められるためと考えられる。さらに,

(4)他看到了桌子上的黑面包,马上就拿了过来。

(4)'他见到了桌子上的黑面包,马上就拿了过来。

の場合,表現全体が話し言葉であるため,「看到」を用いた(4)の方がより自然である²⁾。

「看到」と「见到」との間には上記のような相違が存在するため,例えば

(5)把见到的如实说出。

のような書き言葉的な表現には「见到」を用いるのがふさわしい。「看到」を用いるのであれば,「如实说出」の部分を,話し言葉的な「老老实实地说出来」に改めて

(5)'把看到的老老实实地说出来。

としなければならない。また,

(6)著作得以出版 殷切切送某人一册 扉页上恭正题写:“赠×××先生存正。”

一月过去罢,偶尔去废旧书报收购店见到此册,逐折价买回,于扉页上那条题款下又恭正题写:“再赠×××先生存正。”(贾平凹)

のような書き言葉的な色彩がきわめて強い表現においては,「见到」を「看到」に置き換えると表現の整合性が劣るとされる。(6)の「见到此册」に対応する話し言葉的な成分は「看到这一本」であり,これを用いるのであれば,表現全体が話し言葉的な文体でなければならない。

書き言葉的な性格を有する「见到」の表現は,「看到」を用いた場合に比べると,改まった丁寧な表現としてのニュアンスがより強い。例えば

(7)“是啊,她是想的。每回见到我,她总要问:我爸爸找到没有?有一回,她在报上见到你的名字,又问我:这个李梦雨会不会就是我爸爸?我说:不会,世界上同名同姓的很多。她逼我写信去问。我只好说:我早问过了,那不是你爸爸!”(湛容 p.41)

における「她在报上见到你的名字」は,「看到」を用いた場合に比べると,より改まった書き言葉的な表現であり,話者の「你」に対する敬意が感じられるとされる。

1.2 意志性の強弱について

「看」は本来,「見よう」という意志をもって行われる動作であるため,「看到」の形式をとる場合においても,主体の意志による動作を表わすことができる。例えば

(8)新婚夫妇胸前戴着印有‘囍’字的红花,热情地招待客人。客人们不时地开上几次有

趣的玩笑。气氛活跃，毫无拘束之感。听说晚上还有闹洞房的习惯。遗憾的是我有些事没能看到那最精彩的一幕。(中級コース p.36)

における「没能看到」には、「見たかったが見ることができなかった→残念だ」という話者の意志が込められている。一方、(8)の「看到」を「见到」に置き換えると、表現の整合性が劣るとされる。これは、(8)の表現全体が話し言葉的なものであることに加え、「见到」に置き換えることによって話者の意志性が希薄となり、表現内容との間に矛盾が生じることによると考えられる。同様に、

(9)怎么看不到穿旗袍的呢？那样更显得苗条呢。

(9)'怎么见不到穿旗袍的呢？那样更显得苗条呢。

の両者を比較した場合も、(9)の「看不到」は、「(チャイナドレスを着た人の姿を見たいがなかなか)見ることができない」ことを表わすのに対し、(9)'の「见不到」は、「見たい」という主体の意志が「看不到」ほど強くは感じられず、「(チャイナドレスを着た人の姿がなかなか)目の前に現れない」ことを表わすとされる。(9)'と同様のことは、以下の表現例についてもあてはまる。

(10)每年十月至二月是“邦邦鱼”的冬眠时期，这时候，它隐藏在石缝或洞穴中，不容易见到。 (美食・下 p.211)

(11)一天，他在大队干部和社员的陪同下上山去了。他顺着楠木冲往上走，一股山溪顺着峡谷往下流。走到中间，见到一个水库。这就是由他建议并投资五百元修成的乌石水库。他放眼望去，一潭秋水，碧波荡漾。(报告 p.608)

(10)の「不容易见到」においては、「邦邦鱼」がなかなか姿を現さないことが、(11)の「见到水库」においては、「他」が歩いて行くにつれて「水库」が視界に入ってきたことが表現されている。(10)、(11)の「见到」を「看到」に置き換えると、主体の意志によって客体映像をとらえるというニュアンスのより強い表現となって表現全体の内容との整合性が劣ることとなるため、「见到」を用いる方が better であるとされる。

「见到」が「看到」よりも意志的な動作を表わす成分としての性格が弱いのは、「見」がもともと無意志の動作を表わす成分であることによると考えられる。成戸 2004 ap.315 において、「見」は

①“(ヒトに)会う”という双方向的な動作

②客体の映像が自然に感覚主体の目に入ってくること＝客体の映像が主体に向けて単方向的に入ってくること

③感覚主体の存在を問題とせず、“見える”状態として、すなわちヒトやモノが視界内に存在すること

のいずれかとしてコトガラを表わす成分であることが明白となった。これらのうち、「会う」を表わす①を除けば、②、③はいずれも主体の意志とは無関係である。そして、「見る」を表わす「见到」は、「-到」の働きにより主体から客体への単方向動作を表わす成分

となっているものの³⁾, 必ずしも主体の意志的な動作の結果として「見えた」ことを表わしているのではない。一方,「看到」においては,「看」という意志的な動作の結果として視線が客体に到達したこと, 換言すれば, 視覚によって客体の姿をとらえようとつとめた結果として客体映像を目にしたことが表現されているため, 明確な意志性が含意されているといえることができる。周知のように,「見」は知覚動詞の補語となって「V見」の形式をとり, 動作が無意志であることを示す働きをする。一方,「動作+結果」を表わす「V到」に用いられる前項動詞Vは, 通常は意志性を含んだ他動詞である。「见到」は, 意志性を含まない動詞「見」が「V到」の形式に用いられているという点において通常の「V到」とは異なるため,「见到」が「看到」をはじめとする通常の「V到」とは異なり, 意志的な動作を表わす成分としての性格が弱いとしても不自然ではない。但しこのことは,「见到」が主体の意志とは全く無関係に客体をとらえる動作を表わす成分であることを意味するものではない。荒川 1985p.2 は,「听」の中には結果に重点のある,「聞こえる」に近い「听」があるという予測のもとに表現例を調査し,「听」の中には

- a)(意識的に注意深く)聞ク
- b)(意識的だが受身的に)聞ク
- c)(無意識的に)聞ク, 耳二入ル

のような, おおよそ3つの段階があると結論づけている⁴⁾。荒川のこのような考え方を参考にすれば, 感覚動詞の表わす動作が意志的なものであるか否かの判断に際しては, 上記のb)のような領域の存在を考慮することが重要であり,「看到」よりも意志性に乏しいからといって,「见到」が「見」と同じく主体の意志とは全く無関係に実現した動作を表わす成分であると結論づけることはできないこととなる。このため,「见到」は, 意志性がきわめて強い「看到」と, 意志性を全く含まない「見」との中間にあって, 意志性が弱いながらも主体から客体に向けて視線が到達したことを表わす成分であると位置づけるのが妥当と考えられる。

ところで,「看到」は,「あらかじめ見たいと思っていたものを見た」ことを表わす働きのほか,「見るに値するものを偶然に見た」ことを表わす働きがあることが, 成戸 2001 で明白となっている。これらの働きはいずれも, 話者の客体に対する「見るに値する」という肯定的価値判断が発話時になされることと表裏一体をなしている⁵⁾。例えば

- (12)我在自由市场看到了一个竹花篮。这个花篮做工精细, 表面编织着山水, 又好像是幅小小的山水画儿。真可以说是一件工艺品了。

における「看到」は,「(探していたお目当ての竹カゴを)見つけた」,「(気に入った竹カゴを偶然に)見つけた」のいずれの内容に解することも可能である。一方,

- ?(12)'我在自由市场见到了一个竹花篮。这个花篮做工精细, 表面编织着山水, 又好像是一幅小小的山水画儿。真可以说是一件工艺品了。

も(12)と同様に, 上記のいずれの内容にも解されるが,「(探していたお目当ての竹カゴを)

見つけた」は、意志性を「看到」ほど明確には表わさない「见到」の性格とは相反する内容であり、かつ、文章全体が話し言葉であるため表現の整合性は(12)に劣り、やや不自然とされる。このことは換言すれば、前もって探して求めている結果として客体を目にしたことを表わす場合には、「见到」よりも「看到」を用いる方が better であるということである⁶⁾。このように、「看到」よりも意志性に乏しい「见到」は、「あらかじめ見たいと思っていたものを見た」ことを表わす場合には、表現の整合性が「看到」に及ばない。但し、このことによって、「见到」が客体に対する肯定的価値判断を含まないということにはならない。客体に対する肯定的価値判断とは、発話時における「見るに値する」という判断であり、「見るに値するものを偶然に見た」場合にも肯定的価値判断はなされるのである。成戸 2004 a.p.317-318 においては、「見」との比較を通して、「见到」の表現が上記のような肯定的価値判断を含んでいることが明白となっている⁷⁾。「见到」が「看到」と異なるのは、「あらかじめ見たいと思っていたものを見た」ことよりは、例えば

(13)我在山里偶然见到过一只熊猫。

のように、「見るに値するものを偶然に見た」ことを表わす働きの方に比重が置かれている点である。このように、同じく肯定的価値判断を含んでいるといっても、その内容は、「看到」と「见到」では異なっている。

以上の考察により、「见到」は「看到」よりも意志性に乏しく、客体を目にした事実と、その事実に対する肯定的価値判断を述べる書き言葉的な表現形式であることが明白となった。

2 距離・視野と方向性

本章においては、主体・客体間の距離、視野の広さ、動作の方向性という点から「看到」、「见到」の相違について考察をすすめる。

2.1 主体・客体間の距離、視野の広さ

「看到」、「见到」の使い分けに際しては、例えば以下の表現例のように、主体・客体間の距離の遠近が関係していると考えられる場合がある。

(14)也许是头一次看到这种陌生的装束；也许是头一次感到手术室异样庄严的气氛；也许是头一次见到手术台上雪白的有孔巾下露出一只血淋淋的眼球，造反派们给吓住了。
(湛容 p.198)

(14)においては、手術室に入って来た「造反派们」が医師たちの白衣姿を目にしたことは「看到」によって、手術台に横たわる患者の眼球を目にしたことは「见到」によって表現されている。「看到」、「见到」の両者を比較すると、前者は手術室に入った時点で実現可能であるのに対し、後者は、さらに手術台に近づいてはじめて実現するという相違

が見られる。かつ、「看到」の客体である「陌生的装束」は「手术室」に位置するのに対し、「见到」の客体である「血淋淋的眼球」は「手术室」の中であって、それよりもさらに狭い空間である「手术台上」に位置するという関係にある。このため(14)においては、「见到」よりも「看到」によって表現される動作の方が、主体・客体間の距離が遠く、視野も広いこととなる。

「看」は本来、主体が一定の方向に視線を向ける動作であり、視線が客体に到達したか否かは問題とはされない。これに対し「见」は、その実現と同時に客体が目に入るという特徴を有している。このため、「看」、「见」が共起する以下の表現においては、「看」という動作の向かった空間の範囲内に「见」の客体が存在するという関係が成立することとなる。

(15)鲁义一声长叹，惊动了侯魁，她透过门缝朝外一看，见这位过路客人还缩在屋檐下，就产生了恻隐之心。 (茶酒 p.42)

(16)他进了门一看，就见一个蝈蝈笼子挂在窗前葫芦架上。

(15)においては、「见」という動作によってとらえられた「过路客人」が位置する「在屋檐下」は、「看」という動作の向かった空間(=門の外)に含まれている。同様に、(16)においては、「蝈蝈笼子」が位置する「窗前葫芦架上」は、門の内側という空間に含まれている。(15)、(16)いずれにおいても、主体の視線は、「看」の段階では、客体を含む一定の広がりをもった空間に向けられているのに対し、「见」の段階では、さらに狭い空間に視野が絞り込まれた上で客体に到達している。前述したように、「见」は動作の実現と客体映像の把握とが同時である点において「看」とは異なるため、一定の方向ないしは空間に視線を向けること、すなわち動作の過程を表わす場合には用いることはできない。「看」と「见」との間にはこのような相違が存在するため、視野の広さという点において「看」は「见」よりも広く、主体・客体間の距離においても「看」の方がより遠いという結果となり、このことは「看」、「见」が「-到」をともなった場合にも同様であると考えられる。

(14)における「看到」、「见到」は、それぞれが別々のモノを視線の最終的な到達点としている点において、(15)、(16)の「看」、「见」とは異なる。しかし、(14)の「看到」、「见到」を相互に置き換えることができないことから明白なように、一定の広がりをもった空間に向けて視線を送る「看」の段階から、より狭く限定された空間に視野を絞り込む「见」の段階に向かうという経過をたどっている点においては、(15)、(16)と共通している。

1.2 で述べたように、「看到」は「见到」に比べ、意志的な動作を表わす成分としての性格がより強い。このことは、上記の(15)、(16)に見られる「看」、「见」の特徴と符合する。すなわち、客体が存在する方向に向けて意識的に視線を向ける動作「看」に対し、「见」はそのような性格を有してはいない。遠くに存在する客体、広い視野内に存在する客体

を見ようとすれば、おのずと意識的に視線を送ることとなる。このため、主体・客体間の距離や視野の広さと、動作の意志性の強さとは深く関わっているといえることができる。一方、主体・客体間の距離が比較的近く、視野も狭い場合においては、意識的に視線を送らなくても客体映像が自然に主体の目に入ってきてやすいため、このようなコトガラを表わすには「看到」よりも「见到」を用いる方が適切であると考えられる。

2.2 動作の方向性

主体から客体への視線の到達を表わす「看到」は、以下のように、動作の起点を表わす「从・N」との共起が可能である。

(17) 小时候，从我的房间可以看到院子里的樱花树。

一方，(17)の「看到」を「见到」に置き換えた

* (17)' 小时候，从我的房间可以见到院子里的樱花树。

は非文とされる。(17)'が非文とされるのは、話し言葉的な表現に用いられた「见到」が「(ヒトに)会う」を表わす成分としての性格を帯びることに加え、「看到」と「见到」との間に、客体への方向性の強さの点で差異が存在するためと考えられる。この差異はどこから生ずるのであろうか。

成戸 2004bp.74 で述べたように、客体に向かう視覚動作の起点を表わす「从・N」と、客体から主体に向けての単方向性を有する「见」とが共起する表現においては、方向性の上で矛盾が生じることとなる。このため、

* (18) 小时候，从我的房间可以见院子里的樱花树。

は非文とされる。これに対し、客体への単方向動作を表わす「见到」を用いた(17)'の場合には、方向性の上で矛盾が生じていないにもかかわらず非文とされる。また、「看见」を用いた

(18)' 小时候，从我的房间可以看见院子里的樱花树。

は自然な表現として成立する。「看见」は「過程+結果」を表わす成分である点においては「看到」と共通しており、かつ、前節で述べたように、「看」から「见」へと視覚動作の段階を踏むことは、客体に向けての視界がより狭く絞られることである。このため、視線の方向も客体に向けての単方向的なものとなり、空間的方向性において「从・N」とは矛盾しない⁸⁾。

一方、「见到」の場合には、成戸 2004 ap.311, p.315 で述べたように、「-到」が附加されることによって「见」が動作の過程を表わす成分としての性格を帯びることとなる。しかし、もともと結果を含意する動詞「见」に「-到」が附加された形式であるため、「见到」が表わす内容は、「看到」、「看见」をも含めた一般の「V+結果補語」とは異なり、「動作の過程+結果」のように明確に分析することはできない。すなわち、「看到」、「看见」の場合には、「看」が客体に向けて視線を送る段階を、「-到」、「-见」が客体を視覚に

よってとらえる段階を表わすというように、2つの段階が明白に分かれているのに対し、「见到」の場合にはそれらが明白に分かれているわけではない。このため「见到」は、過程から結果に向けての時間的単方向性を、「看到」、「看见」の場合ほどはっきりとは表わしていないということとなる。従って、「见到」の表現においては、客体に向けての空間的単方向性も「看到」、「看见」の表現におけるそれほどには強くないと考えられる。成戸 2004 a p.302 で述べたように、「見る」を表わす「见到」における「-到」は、動作の客体への空間的単方向性を明示する働きをしている⁹⁾。客体に向けての空間的単方向性を有する点においては、「见到」は「看到」、「看见」と共通点を有するものの、結果に向けての時間的単方向性が明確でない分、「看到」、「看见」よりも客体に向けての空間的方向性も弱いこととなって、「从・N」とは共起しにくいと考えられる¹⁰⁾。

(17), (17)'と同様に,

(19)在陪我妻子回娘家的火车上, 从火车的车窗里看到了海, 这是我第一回看到海。

? (19)'在陪我妻子回娘家的火车上, 从火车的车窗里见到了海, 这是我第一回见到海。
の場合も、「看到」を用いた(19)は成立するが、「见到」を用いた(19)'はやや不自然とされる。

一方,

(20)从窗户看到的雪景像一幅画儿一样。

(20)'从窗户见到的雪景像一幅画儿一样。

の場合には、「看到」、「见到」いずれの表現も成立する。両者を比較すると、(20)は意志的な動作の結果として「雪景」をとらえたことを、(20)'は「雪景」が自然に目に写ったことを表わすとされ、「看到」を用いた(20)の方が、客体に対する動作の方向性がより強く感じられる表現となっている。(20), (20)'は、「像一幅画儿一样」が存在することからも明白なように描写性が高い表現であり、このような場合には、意志性が「看到」より弱い「见到」を用いても表現の整合性という点において差異は生じないと考えられる。

また,

(21)我们从山顶可以看到远处的村子。

においては、「山顶」という起点から「村子」を目でとらえたことが表現されている。主体の視線の最終的な到達点は「村子」であるが、「远处」が存在することにより、「山顶」を起点とした視線の空間的な移動が、(17), (19), (20)の場合よりも具体的かつ明確に示されている。このため、(21)においては、「村子」が見えるだけでなく、そのような遠くまで見えることが含意されており、「远处的村子」は「看到」という動作の客体であると同時に、視線の移動先としての空間的な到達点(トコロ)としての性格をも帯びている¹¹⁾。このような場合には、客体に向けての単方向動作であることを明確に表わす成分である「看到」を用いることはできるが、

* (21)'我们从山顶可以见到远处的村子。

は成立しない。前述したように、「見る」を表わす「见到」においては、客体への空間的単方向性が「-到」により明示されている。この場合の「-到」は、動作の方向性を確定することを主たる働きとしているものの、動作の到達点を示す働きは「看到」の場合ほどには強くはないと考えられる。一方、「看到」における「-到」の働きは動作の到達点を示すことであり、これにより主体から客体に対して動作が及ぶというニュアンスが強まっている¹²⁾。「看到」、「见到」の間に見られるこのような空間的方向性の強弱の差異は、1.2で述べたような意志性の強弱の差異とも符合する。すなわち、「看到」は、客体に対して視線を向けようとする意志の強さの点で「见到」にまさっている分、客体への空間的方向性も強いということである。

以上のように、「从・N」との共起関係において、「见到」よりも「看到」を用いる方が表現の整合性が高いのは、客体に向けての空間的方向性の強さにおいて「看到」の方が優位にあるためと考えられる。

3 主体の必須度と他動性

本章においては、コトガラにおける主体の必須度の高低、表現の他動性の高低という点から「看到」、「见到」の相違について考察をすすめる。

3.1 主体の必須度

成戸 2004 ap.311-312 で述べたように、無情物がコトガラのテーマとなっている場合には、以下のように、「见到」よりも「见」を用いる方が自然である。

○(22)车已经见不到了。 ◎ (22)'车已经不见了。

(22)においては、表現には含まれていない感覚主体の存在が感じられ、その主体が「车」を目にすることができなくなったというコトガラが表わされているのに対し、(22)'においては、「车」の視界内存在について述べられており、感覚主体の存在は意識されない。このため、「モノが見あたらなくなった＝視界内に存在しなくなった」という状況を表わす場合には、「没有了」と同様に主体の存在が意識されない「不见了」を用いる方が better である。

このように、「见到」は感覚主体の存在を含意する成分である点において「见」とは異なる性格を有するが、「看到」と比較した場合にはどのような相違が見られるのであろうか。成戸 2004 ap.316 で述べたように、動作主体は、「看」にとっては常に必須項であるのに対し、「见」にとっては必ずしもそうではない。このことから、「看到」の表現における主体の必須度は、「见到」の表現におけるそれよりも高いことが予測される。例えば

(23)从前那样的人力车已经看不到了。 (23)'从前那样的人力车已经见不到了。

はいずれも自然な表現として成立する。前者における「看不到了」は「見ようとしても

見られなくなった」という内容を、後者における「见不到了」は「目にしなくなった」という内容を表わすとされる¹³⁾。感覚主体の意志がより強く含意される(23)の方が、(23)'に比べ、主体の存在がより強く意識される表現となっている。このため、(23)における主体・動作の結びつきは、(23)'におけるそれよりも強いと考えてさしつかえない。(23)'は、意志性の強さの点で(23)よりも劣る分、感覚主体よりは、客体である「人力車」の方に表現の比重が置かれることとなるため、主体・動作の結びつきは(23)の場合よりも弱く、その分だけ動作・客体の結びつきが強いこととなる。同様のことは、1.2で挙げた(9)', (10), (11)にもあてはまる。これらの表現例も、「看到」を用いた場合に比べると意志性が弱く、客体の側よりに視点が置かれた表現となっている点において、(23)'と共通している。

また、

(24)车越走越远了, 已经看不到了。

は、主体の位置する場所から「車」がだんだん遠く離れて行ったため、主体の視線が届かなくなっていったことを表わしており、話者の視点は主体の側に置かれていると考えてさしつかえない。(24)に対し、

(24)'车越走越远了, 已经见不到了。

は、表現の整合性が(24)に及ばないとされるか、インフォーマントによっては非文とされる。これは、「见不到」を用いると、主体・動作の結びつきが「看不到」の場合よりも弱くなるため、話者の視点が主体の側にあることが(24)の場合ほど明確ではなくなり、前件の内容との間に矛盾が生じることによると考えられる。

以上の考察により、主体との結びつきにおいては、「见到」は「见」よりも強く、「看到」よりも弱いことが明白となった。前述したように、「见」にとっては、コトガラを構成する成分としての主体は必ずしも必須項ではない。このような性格を有する「见」に「-到」が附加されると、主体から客体への動作の方向性が生じ、コトガラにおける主体の存在が含意されるのである。このように、「见到」の表現においては、主体がいわば潜在的な項としての性格を有しているのに対し¹⁴⁾、主体が不可欠である「看到」の表現においては、主体はいわば顕在的な項とも言うべき性格を有しているといえることができる。

3.2 表現の他動性

前節で述べたような主体・客体と動作との結びつきの強さの差異は、例えば以下のような表現例においても明白にあらわれている。

(25)一天, 他在街上转, 忽然看到一家铺子卖爆牛肉, 十分鲜嫩。

(25)'一天, 他在街上转, 忽然见到一家铺子卖爆牛肉, 十分鲜嫩。(美食・上 p.91)

(25)は、「他」が「一家铺子」を「見た(見つけた)」ことを表わしているのに対し、(25)'は、「一家铺子」が「他」の目の前にあらわれたというニュアンスを含んでいる。このことは換言すれば、(25)は、「他」がある方向に視線を送った結果、偶然に「一家铺子」を

目にしたことを表わすのに対し、(25)'は、視線を送る過程がそれほど明白なカタチでは存在せず、気がついたら偶然に「一家舗子」が視界に入ってきていたことを表わすということである。従って、(25)の「看到一家舗子卖爆牛肉」は主体である「他」に視点が置かれた動作表現であるのに対し、(25)'の「见到一家舗子卖爆牛肉」は、客体である「一家舗子」の側よりに視点が置かれており、(25)よりも主体の意志性が弱いと、動作表現としての性格も弱いといえることができる。

「看到」が「见到」よりも動作表現としての性格が強いということは、以下の表現例において一層明白となる。すなわち、

(26)我在自由市场看到了一个竹花篮，当场就买下来了。

においては、前件・後件ともに動作を表わす成分であるのに対し、「看到」を「见到」に置き換えると、例えば

(26)'我在自由市场见到了一个竹花篮，这个竹花篮做得很精巧。

のように、客体である「竹花篮」について詳しく描写する内容を後件として続ける方がふさわしいとされ¹⁵⁾、描写表現としての性格を帯びることとなるため、動作性は弱まる。また、

(27)他从小惯用右手，左手笨拙软弱，连提个空桶都感到吃力，用扁担钩子钩着桶，慢慢往井里顺，整根扁担都进了进，他又大弯着腰，才看到水桶底触破了平静的井水，他的脸随着变成无数碎片，在井里荡漾着。(青年 p.101)

においては、意志的な「他又大弯着腰」に連なる一連の動作として「才看到水桶底触破了平静的井水」が続いているため、「他」がその意志的によって「水桶底触破了平静的井水」という情景を目にしたことは明白である。このような場合に「见到」を用いると、非文もしくは不自然とされる。

一方、例えば

(28)后来便有了单位的周末舞会，有了集体春游，有了去北戴河的轮流休假，有了出差。还有电影院和音乐会……以前这些地方从来见不到他的踪影，现在他是回回不落。(张抗抗)

における「以前这些地方从来见不到他的踪影」は、「以前はこのような場所で彼の姿を見かけることはなかった」という内容を表わし、コトガラが「トコロ+V+モノ」の形式により一種の状況として表現されているため、動作表現としての性格は通常の動詞表現よりも弱い。このため、(28)の「见不到」を動作性のより強い「看不到」に置き換えると、自然な表現として成立はするものの、表現の整合性は劣るとされる¹⁶⁾。また、例えば

(29)有些仪式，像“拜天地”现在已很少见了，尤其是在城里。

における「现在已很少见了」の部分は、「今ではなかなか見られなくなった」という状況の変化を表わしている。(29)の表現例を、「见」よりも動作性の強い「见到」、「看到」を用いた

(29)'有些仪式,像“拜天地”现在已很少见到了,尤其是在城里。

(29)"有些仪式,像“拜天地”现在已很少看到了,尤其是在城里。

と比較すると、いずれも自然な表現として成立はするが、(29)>(29)'>(29)"の順で表現の整合性が低くなるとされる。(29)が表わしているコトガラは客観的な状況であり、ヒトの意志的な動作ではない。このような場合には、事実を客観的に描写する形式「見」を用いるのが最も適切であり、主体の存在を含意する表現形式「见到」がこれに次ぎ、主体の存在を不可欠とする表現形式「看到」は整合性において最も低い順位に位置することとなる。このように、状況の変化を表わす場合には、「看到」よりも動作性が弱い「见到」を用いる方が better である。さらに、「見」を用いた(29)は最も書き言葉的な表現であるのに対し、「看到」を用いた(29)"は最も話し言葉的な表現、「见到」を用いた(29)'は両者の中間的な性格を有するとされる。

ところで、前述したように、「见不到」の表現は主体の存在を含意するものの、主体がコトガラの成立に不可欠の成分であるというほどではないので、以下の表現例のように主体の存在が極めて希薄であるコトガラを表わす場合に用いられることがある。

(30)这时,在河南林县第四招待所二楼一间见不到阳光的屋子里,著名诗人郭小川,正支撑着由于哭泣和连续的失眠而红肿了的眼睛,奋笔疾写着长诗《痛掉敬爱的周总理》。

(30)の「见不到阳光的屋子里」は、「日光のあたらない部屋」を表わしている。「日光のあたらない部屋＝日光を目にすることのない部屋」であり、主体の存在は含意されているものの極めて希薄であり、動作性も極めて低い。これに対し、「看到」を用いた

* (30)'这时,在河南林县第四招待所二楼一间看不到阳光的屋子里,著名诗人郭小川,正支撑着由于哭泣和连续的失眠而红肿了的眼睛,奋笔疾写着长诗《痛掉敬爱的周总理》。

の場合には、ヒトの視界全体に自然に入ってくるはずの「阳光」という客体に対して、意志的な動作を表わす「看到」を用いるのは不適切であるため、非文とされる。このことは、例えば

(31)从此以后,人们趁“邦邦鱼”活动的时期,夜间手持火把,沿着山溪,细听叫声,追踪捕捉。“邦邦鱼”见到火光,便呆视不动,人们可以轻易地伸手抓住。(美食・下 p.212)

のような表現においても同様である。(31)の場合、「邦邦鱼」は、ヒトの持つ「火把」の光をその意志とは関わりなく目にしたのであるため、動作性は低い。(31)の「见到」を「看到」に置き換えると不自然な表現とされる。

以上のように、「见到」の表現は、主体の存在を含意している点においては、純然たる動作表現である「看到」の表現に近い性格を有する。しかし「见到」は、「看到」の表現ほどには意志性が明確ではなく、主体との結びつきの強さや、客体に向けての空間的方向性の強さという点においても「看到」に劣る。加えて「看到」は、動作を「過程＋結

果」のように時間の流れに沿って表現する形式であるの対し、「见到」はそのような性格が弱いため、時間有限的な性格が「看到」よりも弱い。このことは、成戸 2004ap.308で述べたような、「見」が「看」に比べ時間の流れとの関わりが疎であるということとも符号する。従って、「见到」の表現は「看到」の表現に比べ、表現の他動性が低いということができる¹⁷⁾。

注

- 1) 成戸浩嗣「“見”に後置される“-到”について」『平井勝利教授退官記念 中国学・日本語学論文集』白帝社 2004年3月(以下、成戸 2004aとする)、成戸浩嗣「中国語の視覚動詞に見られる諸相-“见”, “看到”, “看见”を対象として-」『コミュニティ政策学部紀要 第7号』2004年12月(以下、成戸 2004bとする)
- 2) (4)'の整合性が(4)に及ばない要因としてはさらに、「见到」が「会う」の意味に傾いている点も挙げられる。
- 3) この点については、成戸 2004ap.302を参照。
- 4) 荒川清秀1985「聞く、見ルに対応する中国語について」『愛知大学外国語研究室報 第9号』愛知大学外国語研究室
- 5) この点については、成戸浩嗣 2001「感覚動詞に後置される“-到”, “-见”(その2)」『コミュニティ政策学部紀要 第4号』愛知学泉大学コミュニティ政策学部 2001年12月 p.160-165, p.170-171を参照。
- 6) (12), (12)'と同様の相違は、(4), (4)'の場合にも見られる。(4)は、「あらかじめ(何か食べるものが)欲しいと思っていて目にした」、「偶然に目にした」のいずれを表わす場合にも用いることができ、かつ、意志的な動作の結果として目にしたというニュアンスが(4)'よりも強いとされる。
- 7) 客体に対する肯定的価値判断がなされることにより、客体とりたての効果が生じる。成戸 2004ap.308-311, p.318においては、「见」の表現と比較した結果、「见到」の表現における客体の情報価値が、動作のそれよりも高いことが明白となっている。
- 8) この点については、成戸 2004bp.74-75を参照。
- 9) 但し、「见到」が「会う」を表わす場合には、「见」が主体・客体間における双方向動作の過程を、「-到」が動作の結果(=実現)を表わすこととなる。この点については、成戸 2004ap.307を参照。
- 10) 「看到」、「看见」と「空間的単方向性」、「時間的単方向性」との関係については成戸 2004bp.74-75を参照。
- 11) 「看到」の客体がこのような性格を帯びるという点については、成戸 2001p.172-173, p.174, 同 2004bp.72-73を参照。
- 12) この点については成戸 2004bp.74, p.76を参照。
- 13) (23)は話し言葉的、(23)'は書き言葉的な表現であるという相違も見られる。
- 14) この点については、成戸 2004ap.319を参照。
- 15) 「看见」も「见到」と同様に、「看到」と比較すると描写表現としての性格が明白となる。この点については成戸 2001p.162を参照。また、成戸 2004bP.71で述べたように、「看见」は「目にした事実を客観的に述べる話し言葉的な表現形式」である点で、「目にした事実と、その事実に対する肯定的価値判断を述べる書き言葉的な表現形式」である「见到」とは異なる。
- 16) 成戸 2001p.161においては、「从火车的车窗里看见了海、海上有两条船。」における前件は「トコロ+V+モノ」の形式をとる情景描写の表現であり、このような場合には主体の意志を含意する可能性のある「看到」よりは、そのような可能性のない「看见」を用いる方が表現の整合性が保たれ

ることが明白となっている。意志性を有しない分だけ「看见」は「看到」よりも動作性が弱く、状況すなわち非動作を表わすのに適しているといえる。「看见」,「看到」間に見られるこのような相違は,「见到」,「看到」間にも同様に存在すると考えられる。

- 17) 成戸 2004ap.311-313, p.315-316 において,「见到」の表現の他動性が「见」の場合よりも高いことが明白となっているため,「见到」の表現の他動性は「看到」よりは低く,「见」よりは高いということとなる。

用例

具体的な文脈が参考となる表現例の出典については,以下の通り。() は略称

- 《全国优秀报告文学评选获奖作品集 二》人民文学出版社 1981 (报告)
贾平凹<笑口常开>《人民文学》1989.5 (贾平凹)
张紫晨・李秀春《美食佳肴的传说・上》吉林文史出版社 1986 (美食・上)
谌容《新时期中篇小说名作丛书 谌容集》海峡文艺出版社 1986 (谌容)
平井勝利『中国語中級コース』白帝社 1985 (中級コース)
张紫晨・李秀春《美食佳肴的传说・下》吉林文史出版社 1986 (美食・下)
张秀春・程景林 编《茶酒的传说》吉林文史出版社 1986 (茶酒)
《青年佳作》中国青年出版社 1988 (青年)
张抗抗<无序十题>《十月》1988.6 (张抗抗)

(2005.9.30)